

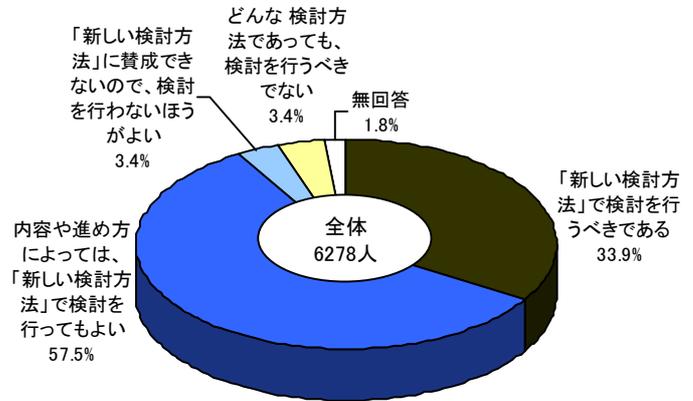
11. 「新しい検討方法」で検討を行うこと

①「新しい検討方法」で検討を行うことについて(問 21)

<全体>

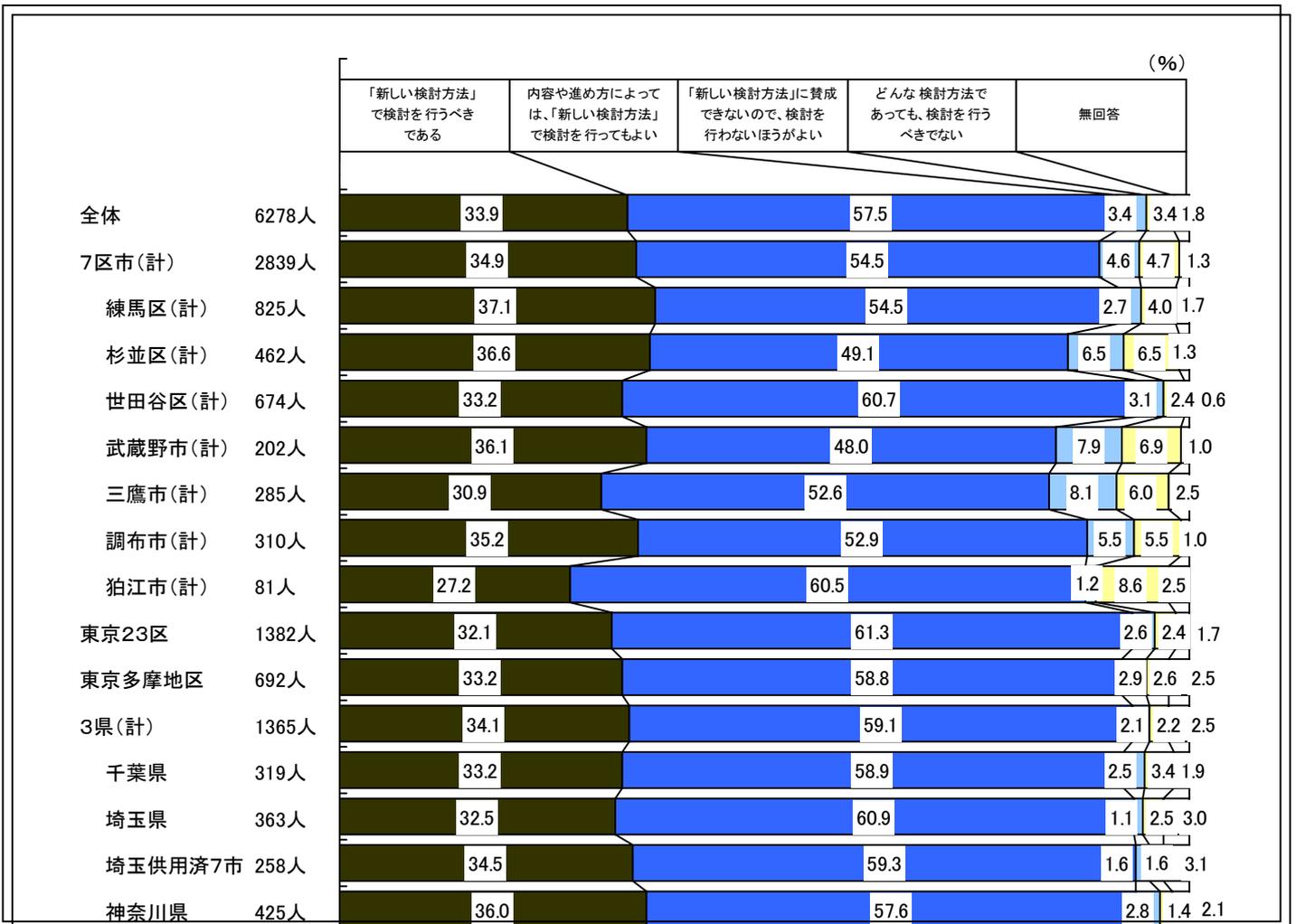
- 東京都区間の「外環」計画について「新しい検討方法」で検討を行うことについて、「検討を行うべきである」が33.9%、「内容や進め方によっては検討を行ってもよい」が57.5%であり、合わせて91.4%である。
- 『「新しい検討方法」に賛成できないので、検討を行わないほうがよい』は3.4%、「どんな検討方法であっても、検討を行うべきでない」は3.4%であり、合わせて6.8%である。

問 21. 関越道(大泉)から東名高速の東京都区間の「外環」計画について、前ページのような「新しい検討方法」で検討を行うことを考えていますが、あなたはこのことについてどのように思いますか。次の中から1つだけ選んで○をつけて下さい。



<新しい検討方法とは>(参考)

都市計画や環境アセスメントなどの手続きに入る前の計画づくりの初期の段階から、関係する自治体や地域住民の方々など多方面の人々に対し、広く情報を公表し、情報を共有した上で、ワークショップ、アンケート調査など多様な手段で、意見や意向を把握し、その結果を分類、整理して公表するなど、住民と行政の双方向のコミュニケーション活動を展開し、それらを計画づくりに反映させる



<7区市エリア別>

(%)

